令和4年度

事業計画

社会福祉法人　容風会

おきなの杜

2022年　法人方針（スローガン）

『NEXT 15 ～おきならしさの追求２～』

～ 絶対大丈夫！おきなの *Challenge Spirit* ～

チャレンジ　スピリット

創立15周年を迎えた昨年を、次の15年のためのスタート年と定め、『 NEXT 15 ～おきならしさの追求～』
～ONE TEAM with ONE HEART～をテーマに、よりハイレベルな介護サービスを目指し、
時代の変化に順応する準備を整えてまいりました。

2年目の今年は、「～ 絶対大丈夫！おきなのChallenge(チャレンジ) Spirit(スピリット) ～」をテーマに、
みなさまが人間的で豊かな時間を過ごし、上質で快適な暮らしをおくっていただくため、
自立を支援する介護の実践にチャレンジします。
日々のケアが根拠に基づき提供され、スタッフひとりひとりが自分の仕事に自信と誇りをもち、
大きな成長を遂げるため、科学的な介護を身につけていきます。

これからも、法人理念である「感動を提供し、感情に溢れる時間と環境づくり」を継続するため、仲間とともに、
力を合わせてチャレンジし、みなさまの期待に応える、希望を叶える、おきならしさを追求してまいります。

今年も新しい日常の中、より安心安定のサービスを提供してまいりますので、
一層のご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

社会福祉法人　容風会
理事長　金丸 勝利

特別養護老人ホーム おきなの杜

2022スローガン

自立支援介護実践スタート！！　ハイレベルな介護サービスを目指します

〈運営方針〉

2022年は、自立支援介護が本格的に始動します。コンサルの指導のもと、自立支援介護理論（水分・食事・運動・排泄の生理学等）をしっかり学び、毎月対象者の事例検討を行いながら、住民様が「その人らしく豊かに生活できる」ように、自立を支援する介護の実践にチャレンジしていきます。
専門職、介護職それぞれ同じ目標に向かって、スタッフひとりひとりが自分の仕事に自信と誇りをもち、大きく成長できるチャンスとして取り組みます。
「先進的介護」も引き続き取り組み、更なる業務改善をすすめていきます。昨年は、記録ソフトを変更し、記録時間の大幅な短縮ができました。
2022年は、業務仕分けを行い業務内容を「見える化」するとともに、見守りセンサー、インカム等を導入し、業務の効率化をすすめます。
また、移乗支援機器を併用しながら、安心・安全な介助を行っていきます。
2年前より、自立支援介護の実践を事業計画の目標として掲げていましたが、思うように取り組めませんでした。でも、今年は違います。
自立支援介護を実践し、大変身の年にしたいと思います。

そのための『3つの目標』と『3つの約束』

目標1　自立支援介護の理論をしっかり学び、4つの基本ケアを実践していきます。

〈約束〉

① 自立支援介護理論（水分・食事・運動排泄の生理学等）をしっかり学びます。
② PDCAサイクルのマネジメントが適正にできるように学習し知識を習得します。
③ 事例検討は、まずは主任、専門職で事例をまとめ、活発にディスカッションを行いながら力量をつけていきます。

目標2　先進的介護に引き続き取り組み、業務の効率化を図ります。

〈約束〉

① 効率よく業務が行えるよう、業務仕分けを行い、各業務を「見える化」します。
② インカムや見守りセンサーの導入に向けて情報収集やデモを行います。
③ 休憩時間の確保、残業を減らし、安全安心な職場環境を作り、離職率ゼロを目指し、人材確保にも取り組みます。

目標3　ノーリフティングケアと福祉機器を併用した安心・安全な介助を行う。

〈約束〉

① 福祉用具の操作を的確に学び、対象者を選別し、介助を安全に行います。
② ノーリフティングケアは、学習会を継続して行い、技術向上を目指します。
③ 床走行リフト、特浴改装、見守りセンサー等の機器の導入に向けて学習・情報収集を行い機器の選別を行います。

ショートステイ おきなの杜別館

2022スローガン

笑顔、元気、感謝をあなたに届けます！！NO.1おきなの杜別館を目指します

〈運営方針〉

昨年度はスタッフ、利用者がコロナ陽性となり、数日の休業となってしまいました。ご利用者様、ご家族様、ケアマネジャー様の皆様には、ご迷惑とご心配をおかけ致しました。今回このようになってしまった事で、気付いた事、学んだ事が多々有りました。その中でも、ご家族様、ケアマネジャー様からの労いのお言葉を沢山頂戴できたのもスタッフ一同、感謝でいっぱいです。これもひとえに今までのご家族様、ケアマネジャー様との関係が構築できていたものだと思っています。なので、今度は感謝をお伝えする番です。私たちはこの感謝を忘れずに、感染対策を忘れずにどなたにも更におきなの杜別館が必要だと思われるショートステイをお届けします。Smile、Energy、Thanksをお届けします。
スタッフも、ご利用者様、ご家族様、ケアマネジャー様のどなたでも利用したい、行きたい、働きたいと思えるようなNO.1ショートステイおきなの杜別館創っていきます。感染対策にも力をいれ、どなたにもNO.1をお届けします！！
また、在宅生活の自立を目標とした自立支援について学び、いつでも実践できるように学びます。

そのための『3つの目標』と『3つの約束』

目標1　ご利用者様・ご家族様が安心してご利用できる場所を提供します

〈約束〉

① 状況に合ったレクを考え、少しでも楽しんで過ごして頂ける様に計画します。
② おもてなしの気持ちを常に持ち支援を行います。
③ ご家族様と情報交換を密に行い信頼関係を築きます。

目標2　スタッフが働きたい、スタッフでも利用したいと思えるショートステイを作ります

〈約束〉

① スタッフ間のでの報連相を徹底します。
② お互い様の気持ち、助け合いの気持ちを1人1人が持って、業務を行います。
③ 自立支援介護理論（水分・食事・運動・排泄の生理学等）を学びます。

目標3　稼働率95%を目指します

〈約束〉

① ご家族様・ご利用者様が望まれる生活が少しでも長く続けられる様支援します
② スムーズな受け入れが行える様にスタッフ間で情報交換を密に行います。
③ 他事業所との信頼関係を築きます。

おきなの杜デイサービス　いきがい元気塾

2022スローガン

LIFE STORY～もっと元気にもっと笑顔に～

〈運営方針〉

法人の自立支援介護がスタートしました。デイサービスもこの大きな波に乗り遅れないよう、根拠に基づいた正しい知識と介護の概念の学習に取り組みます。今まで(少し)取り組み、(今では)挫折してしまった、水分・運動・栄養・排泄の改善を通所介護で行うという壁に、もう一度挑みます。同時に、在宅での自立支援とはどういうことか？という問いに、チーム元気塾での取り組みを通して答えを見つけていきたいと考えています。
また、認知症について症状や対応についての学びをもっと深め、スキルアップを目指します。認知症の症状があっても自分らしく、自分も家族も日々を幸せに生きていくことができるように・・身体機能(機能訓練)・健康観察(看護)・いきがいに思える役割づくりや活動参加(介護)を行い、認知症症状の観察と適切な対応のスペシャリストを目指します。

そのための『3つの目標』と『3つの約束』

目標1　在宅における『自立支援介護』って何？とりあえずやってみよう！

〈約束〉

① レクや体操など、提供するものに根拠や目的を示し、効果を確認します。
② 習うより慣れよ！PDCAサイクルを使って慣れて、合理的介護を行います。
③ まずは取り組めることから！
デイの運動・水分・栄養・排泄を見直します。

目標2　「出来る事を増やす・保つ」認知症対応の元気塾スタンダードを確立

〈約束〉

① 自分で出来ることを維持し、本人の能力を引き出せるケアをします。
② ユマニチュードや認知症対応の概念を学び、利用者対応に役立てます。
③ デイのスケジュールに様々なテイストの運動機会を組み込み、運動面からの認知症ケアに取り組みます。

目標3　利用者様が「行きたい」と言ってくれるような、楽しく、意義のある事業所となる

〈約束〉

① 笑顔を引き出せるレクや交流を心がけ利用者様の満足度を上げていきます。
② 効率的・効果的な機能訓練を提供し、成果を明確にします。
③「コレをする為」という目的を作る為、習慣化できるサービスを提供します。

おきなの杜デイサービス　やりがい文化村

2022スローガン

Grow up！スタッフも利用者も「本気」にコミット！

〈運営方針〉

昨年10周年を無事に迎えることができた文化村は、次の10年に向けて「デイサービス」の在り方を変えるための挑戦する年として動き出します。
時代の変化に伴って介護サービスにも昨年大きな変化が訪れました。「自立支援介護」「LIFE」「PDCAサイクル」、ICT／AIなど、これまでの介護現場や業務の仕方を大きく変えることを求められています。スタッフ一人ひとりが制度を理解し、全体で取り組んでいくことが非常に大切です。
根拠に基づき提供されるケアを、よりハイレベルで上質なケアにするため、今年度から「自立支援介護」をより身近に、仲間と共に挑戦する機会を法人全体で取り組むこととなりました。この機会に全体で学び・考え・鍛え、そしてそれを利用者様へベストなケアとして提供していけるようスタッフ一人ひとりがスペシャリストになることを目標に取り組んでまいります。
今年も新しい日常の中で、文化村は今まで創り上げてきた3R（Recreation・Rehabilitation・Relaxation）をブラッシュアップし、よりレベルアップしたものを提供し、利用者様の期待に応えられるデイサービスを追求していきます。

そのための『3つの目標』と『3つの約束』

目標1　「自立支援介護」ならお任せ！専門職の力を発揮します！！

〈約束〉

① 積極的に勉強会に参加をし、現場へアウトプットしていきます。
② 機能訓練の成功例を増やし、目標達成に向けて本気で取り組みます。
③ PDCAサイクルを見える化し、根拠に基づいたケアを提供します。

目標2　サービスの向上！介護力・コミュニケーション力共に質の向上を図ります！！

〈約束〉

① 職員ひとりひとりが成長と学びを怠らず自己研鑽に繋げます。
② 多職種での意見交換を行いながらより良いチームケアを行います。
③ 活動・運動で「出来なかった」を「やれば出来た」にしていきます。

目標3　文化村familyの輪を広げ、利用者様・職員にとって心地よい環境を提供します！

〈約束〉

① 「気づく」力を全員で身につけおもてなしの向上に努めます。
② SNS発信部を作り、文化村の情報を外部に発信する力を育てます。
③ 整理整頓を常に心がけ、利用者様に快適な生活の提供を行います。

おきなの杜デイサービス OKINA de ARUKU

2022スローガン

NO ARUKU, NO LIFE！SHALL WE WALK WITH?

〈運営方針〉

加齢は心身の機能にあらゆる変化をおこします。そこで『歩ける』ということは、人生を豊かに過ごすための最大のポイントです。
自宅で好きな時に自分でトイレに行ける事。近くのお店や病院に行けること。道で出会った方と立ち話を楽しめる事。歩くことができると生活は豊かになり人との交流も増えます。運動をすることは、認知症の進行予防、軽度認知症の改善効果も期待できると言われています。
法人が取り組む自立支援型介護の中で、『歩行機能を向上させることで自立を支援する』役割が、アルクの担当です。
今年は干支も半分回った6周年！創立当初のテーマである、『地元を元気に！生活の基本は歩くコトから！！』の原点をもう一度見直し、リスタートダッシュ致します。
セラピスト集団として、法人の機能訓練・科学的介護をリードできる存在となり、利用者様だけでなく、おきなの杜として『NO　ARUKU，NO　LIFE！』と思わず叫んでいただけるチームARUKUを目指して始動致します。

そのための『3つの目標』と『3つの約束』

目標1 もっと身近に！もっとわかりやすく！

〈約束〉

① PITを有効活用し、利用者様、ご家族、ケアマネ様へ分かりやすく説明します。
② 自宅で行える訓練の提案、継続に取り組みます。
③ 歩行訓練は目的に応じた個別化を図ります。

目標2 もっと自分らしく！

〈約束〉

① 疾患に合わせたグループでの訓練を実施します。
② 個人目標を一緒に考え、生活向上を目指します。
③ 運動を通して軽度認知症の改善、認知症予防に取り組みます。

目標3 もっと発信！

〈約束〉

① 目標達成された方へ認定証を交付し、ブログ・インスタ発信します。
② 具体的な訓練内容と成果についてセラピスト会議で報告を行います。
③ 地域の高齢者が集う場に出張して運動の指導を行いたい！（ミニアルク）

介護相談処（居宅介護支援事業）　地域介護支援センターおきなの杜

2022スローガン

自立支援に向けた質の高いケアマネジメントを遂行します。

〈運営方針〉

ご利用者が可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域における医療・介護関係機関が連携して、包括的かつ継続的なケアをご利用者、または、そのご家族に提供できるサービス提供体制の構築を目指し、地域の医師会などと密に連携しながら、ＩＣＴ等 を活用して在宅医療・介護の連携構築と質の向上、および効率的なサービスの提供をしていきます。
支援や介護のし過ぎは依存と能力低下を招く可能性が大きく、『してもらう介護ではなく自立支援の介護である』ということを、保険者、事業者、ご利用者ご家族の共通理解にすることが大変重要です。
科学的介護とは「科学的裏付けに基づく介護」のことを言い、本人の意向や現場の感覚も大切ですが、それだけに頼るのではなく客観的な証拠に基づいた介護を行うことで、自立支援や重度化防止における成果や効率をより高めていくことを目指した、居宅介護支援事業所・ケアマネジャーであるよう努めてまいります。

そのための『3つの目標』と『3つの約束』

目標1　住みたい場所で安心して暮らせるように支援します。

〈約束〉

① 地域支援体制（医療と介護の連携等）の強化を図ります。
② 地域住民の相談窓口として、困りごと等に対し速やかに対応します。
③ 安心して生活できる環境作りを行います。

目標2　高齢者と家族、地域が繋がり、支えあえる地域作りを目指します。

〈約束〉

① 地域包括ケアシステムの構築に向けて役割を担っていきます。
② 地域の課題解決に向けて、努力します。
③ 家族介護者への支援を行います。

目標3　介護保険制度だけではなく、他制度も活用した支援を行います。

〈約束〉

① 介護保険サービスだけでなく生活を支えるあらゆる方法を提案していきます。
② 個々の力量に応じた、研修を受け、スキルアップを目指します。
③ 他制度の動向にも留意し、情報収集を行っていきます。

経営管理本部　事務局

2022スローガン

次なるステージは「使命・成果・効率」3つのキーワードでハイレベルな事務局へ

〈運営方針〉

2022年の法人のテーマでもある”NEXT15”次のステージに向け、事務局はこれまで各事業所を支える縁の下の力持ち的な存在でしたが、これから先は経営管理本部の名のとおり法人をけん引するセクションとして、ひとり一人の能力を最大限に引き上げることを目指していきます。
まずは今後の国の大きな課題でもある『2040年問題』。労働者不足と社会保障財源のひっ迫という危機に向け、当法人では盤石な経営基盤を築いていくことを中長期的な目標とします。全事業所の黒字化、コスト削減、冗費管理を見直し、適切な財務バランスを確保していき、余力を生めるような仕組みづくりをおこないます。
その他には、昨年からの目標としている「おきなの杜ブランディング戦略＝おもてなしへの取り組み」や「感染症や災害時を想定したBCP計画策定と訓練の実施」、「ICT化（手段）、DXの実現（目的）」についても引き続き取り組んでいきます。
また今後も新型コロナウイルスの影響が続くことが想定されます。感染対策用品などに不足が生じないよう、物品の確保や環境整備にも力を入れ、利用者様やご家族、職員の不安を最小限にできるよう取り組んでいきます。

そのための『3つの目標』と『3つの約束』

目標1　『使命』社会や地域における法人の使命、法人における自分の使命を果たします。

〈約束〉

① 欠員補充のための人材確保に全力で取組みます。
② 経営の黒字化を目指し、財務余力の確保を目指します。
③ 地域の高齢者のお困りごとなどに対応できるよう交流を図り、介護予防教室などを開催していきます。

目標2　『成果』科学的介護は事務局も同じ。根拠があり成果につながる仕事をします。

〈約束〉

① 全事業所の黒字化を目指し、稼働率管理や経営分析を共有します。
② 私たちが出来るSDGsへの取り組みを開始します。まずは3番と11番から。
③ スタッフひとり一人が自分の仕事の時間管理の習慣化と成果の明確化。ただ居るだけが仕事ではない。

目標3　『効率』質の高い試行錯誤を繰り返してみる。常に知識と実行力をアップグレードします。

〈約束〉

① 法人全体のICT化、DX戦略を実行。デジタル法人を目指します。
② 課題を抽出し、改善に向け素早く動き協力会社への依頼につなげます。
③ 事務局全員がバックオフィス・スペシャリストを目指します。1人で何役もこなし、スーパー事務職を目指します。

身体拘束･虐待防止委員会

2022スローガン

拘束虐待ゼロ継続へ！！

〈運営方針〉

法人においては、原則として身体拘束は行いません。又、利用者様、住民様に対し、身体的虐待、放棄放任、心理的虐待、性的虐待、　経済的虐待の行為を行いません。
利用者様の尊厳と主体性を尊重し、スタッフ一人一人が身体的、精神的弊害を学び、拘束廃止に向けた意識を持ち、身体拘束をしないケアの実施に取り組みます。また、迅速な初期対応と利用者様、住民様の安心安全確保を第一に考え、　不安を解消し、安心して生活が送れるように、
全スタッフで身体拘束、虐待についてを学び、拘束ゼロ、虐待ゼロの継続を実現します。

そのための『3つの目標』と『3つの約束』

目標1　3ヶ月に1回、全スタッフで身体拘束、虐待について学びます。

〈約束〉

① 身体拘束について学習会を行い
身体拘束は行いません。
② 虐待について学習会を行い
虐待は行いません。
③ 指針･マニュアルについて
周知徹底します。

目標2　3つのロック0にします。（フィジカルロック、スピーチロック、ドラッグロック）

〈約束〉

① フィジカルロックについて学び、
取り組みます。
② スピーチロックについて学び、
取り組みます。
③ ドラッグロックについて学び
取り組みます。

目標3　スタッフ、利用者様、住民様のストレスが無い環境作りを目指します。

〈約束〉

① 虐待等のサインの早期発見に努めます

② 常日頃から、問題を先延ばしには
せずに、一つ一つ解決していきます。
③ お互い様の気持ちを忘れずに
日々の業務に取り組みます。

感染症・食中毒予防対策委員会

2022スローガン

全職員一丸となって感染対策に取り組みコロナを絶対に持ち込まない

〈運営方針〉

2021年も新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、次々と変異株が発生し、ショートステイではクラスターが発生、営業を休止する事態となり、新型コロナウイルスの感染力の強さを思い知らされました。
2022年は、新型コロナウイルスに「感染しない、持ち込まない、拡げない」ために、今以上の感染予防対策に取り組んでいきます。
万が一発生したとしても、BCPマニュアルを基に、業務を止めずに的確な感染防止に努め、拡大を防止し、住民様・利用者様の安全と生活を維持できるように全職員で学習・訓練を行い、慌てずに対応できるようにしていきます。
新型コロナウイルスは進化すると同時に対応策も日々変わっていきます。感染防止マニュアルやBCPマニュアルを随時見直します。

そのための『3つの目標』と『3つの約束』

目標1　事業継続計画（BCP）に基づき、学習会・訓練を行います。

〈約束〉

① 学習会では、事業継続の概念や必要性、情報、発生時の対応を共有します
② 年に1回（12月）、感染対応シュミレーションを行い、手順などを確認します。
③ BCPマニュアルは定期的に見直します感染対策に必要な物資（防護具、消毒液）の確認、備蓄もしっかり行います。

目標2　感染症や衛生管理の学習会や実技研修を定期的に行います。

〈約束〉

① 食中毒、ノロウイルス・感染症の学習会を行います。
② ノロウイルス吐物処理の実技研修を行います。
③ 新型コロナウイルス感染症で、個人防護具の着脱方法やゾーニングの仕方についての実技研修を行います。

目標3　感染症や最新情報を把握し、予防や早期発見・感染拡大防止に努めます。

〈約束〉

① 他の感染症・食中毒に関して最新情報収集し、予防策を立案・実践します
② 住民様の異常の徴候をできるだけ早く発見できるように、注意深く観察します
③ 感染症の流行期は、感染拡大を防止するために、職員や来設者への衛生管理の周知を徹底します。

褥瘡予防対策委員会

2022スローガン

褥瘡について学習し、学びを実践し結果につなげます。

〈運営方針〉

高齢になり認知機能や活動性が低下すると食事への意欲が低下して褥瘡のリスクが高まります。それは特養においても例外ではなく、住民の皆様も常に褥瘡のハイリスク状態と言えます。褥瘡は予防、早期の発見と発生してしまった場合の適切なケアが重要となります。
常に住民様の食事摂取状況や活動性を観察して、栄養状態や皮膚状態、排泄の状況などを把握し、ブレーデンスケールを活用してアセスメントを行い、状況に応じた学習会を開催し、知識を深めていきます。褥瘡マネジメント加算については、新入居の際に褥瘡発生リスクを評価し、ハイリスク状態であると想定される場合は多職種（医師・看護師・管理栄養士・介護職員・介護支援専門員・機能訓練指導員ほか）にて情報を共有した上で褥瘡ケア計画書を　作成し、3か月毎に評価し褥瘡ケア計画の見直しを行います。

そのための『3つの目標』と『3つの約束』

目標1　褥瘡発生状況を把握し定期的に評価を行い、褥瘡を予防する取り組みを行います。

〈約束〉

① ブレーデンスケールで定期的に評価し、早期に状況を把握します。
② 褥瘡発生時は多職種で情報を共有し改善策を検討し、悪化を防ぎます。
③ 褥瘡発生時「褥瘡に関するケア計画書」を作成、3か月毎の見直しをします

目標2　褥瘡について学び、日常のケアに活かします。

〈約束〉

① 褥瘡の基礎知識を学び、褥瘡を発生させない介助法を身に付けます。
② 医療・栄養面からの褥瘡へのアプローチも学習します。
③ 実例を交えての意見交換の場をもち、日々に業務で抱いている褥瘡に関する疑問を解消します。

目標3　褥瘡発生のメカニズムを知り、有効な体圧分散・除圧について学びます。

〈約束〉

① ポジショニングやシーティングの実技研修を実施します。
② 介助グローブ等の使用法を学び、細目に除圧し、褥瘡予防に努めます。
③ ノーリフティングケア委員会と連携して実技研修を行い、体位変換や除圧の正しい方法を身に付けます。

排泄オムツ委員会

2022スローガン

自立支援介護を学び排泄に関する知識の習得、適したケアの実践を目指します。

〈運営方針〉

2022年は、自立支援介護推進のためコンサルが入り、本格的な取り組みが始まります。
排泄オムツ委員会では、自立支援介護＝4つの基本ケア（水分、食事、運動、排泄）の「排泄」についての担い手となっていきます。
そのために、自立支援介護理論をしっかり学び、「排泄」について現状の把握と課題を抽出し、目標達成に向けた実践方法などを検討していきます。
昨年に引き続き、「　オムツゼロ　」を目指し、その為に「　自然排便の取り組み　」を行います。
排泄は、水分・食事・運動など日々の生活と密接に係わっていますので、「　水分摂取量の検討　」「　下剤の調整　」「トイレでの排泄」等を自立支援介護と結び付け、スタッフ一人ひとりが意識して取り組みを行えるようにします。
また、「　予防する力　」を身につけ、感染症予防や異常の早期発見に繋げます。

そのための『3つの目標』と『3つの約束』

目標1　自立支援介護について現状の把握と課題を考え実践します。

〈約束〉

① 排泄に関わる自立支援介護の基礎知識を習得します。
② 現状の把握を行い、課題を抽出し、目的に沿った、計画を立てます。
③ 日常生活で実践可能な内容に落とし込み、継続して行えるようにします。

目標2　予防する力を身につけます。

〈約束〉

① 排尿・排便の性状の把握、異常の見分け方を身につけます。
② 異常の発見により、情報の共有、相談を行い、早期の受診や対策を講じます
③ 正しいオムツの選定、施行方法を学びスキントラブルを減らし、感染予防を実践します。

目標3　トイレでの排泄を大切にします。

〈約束〉

① できること（残存能力）とできないことを見極め、できることを大切にします。
② 医務と連携し、便の性状によって水分強化や下剤の調整を行います。
③ トイレでの正しい姿勢を理解し必要な福祉用具の活用や導入を検討しケア方法の見直しと実践を行います。

おいしい(給食)・口腔ケア委員会

2022スローガン

自立支援介護実践に向けて役割を果たす

〈運営方針〉

2022年は、自立支援介護推進のためコンサルが入り、本格的な取り組みが始まります。
おいしい・口腔ケア委員会では、自立支援介護＝4つの基本ケア(水分、食事、運動、排泄)の「食事・水分」についての担い手となっていきます。
そのために、自立支援介護理論をしっかり学び、「食事・水分」について事例から現状の把握と課題を抽出し、目標達成に向けた方法などを検討し、実践していきます。
昨年に引き続き、食事と口腔内清潔維持から「免疫力アップ」を行い、コロナや様々な感染症から身を守る身体作りに取り組んでいきます。
外出ができない状況が続く中で、食事で少しでも季節を感じてもらえるような献立を考えて、毎日の食事が楽しみになるように取り組んでいきます。
食事が楽しみになれば、喫食率はアップし、低栄養を予防し自立支援介護の実践に繋げていきます。

そのための『3つの目標』と『3つの約束』

目標1　自立支援介護「食事・水分」について現状の把握と課題を考え実践します。

〈約束〉

① 自立支援介護理論「食事・水分」について学習会でしっかり学びます。
② 事例検討も学習会のなかで再度検証し課題と問題点を把握します。
③ 1日の目標量の栄養や水分を無理なく摂るための方法や食事形態「常食化」に向けたアプローチも検討します。

目標2　口腔ケアを適切に行い、誤嚥性肺炎や感染症を予防します。

〈約束〉

① 歯科と連携して口腔機能の維持・向上に努めます。
② 適切な口腔・嚥下のアセスメントを行うための学習会を行います。
③ 口から安全に食べるために、嚥下体操口腔体操の学習を行い、実践していきます。

目標3　安全な食事を提供します。季節に応じた行事食や楽しい食事を提供します。

〈約束〉

① 住民様の状態にあった食事を提供する為に多職種で食事形態を見直します
② 外出できないので季節を感じられるような行事食を提供します。
③ 献立表の確認を行い、旬の食材を多く取り入れた献立を考えていきます。

事故防止対策委員会

2022スローガン

気づきを高め(ヒヤリ)リスク回避！！誰にでも安心、安全を！！！

〈運営方針〉

住民様、利用者様に安心してご利用頂く為、リスク管理を行い、介護事故発生の未然防止及び再発防止に努めます。事例に学び、事前にどのような対策を取るべきか、リスクに備えるための職員の研修を行っていきます。
又、事故報告書、ヒヤリハットを集計し、事故の発生原因、結果等をとりまとめ、介護事故の発生状況等の分析を行い、有効な防止策を検討した上で、その内容を全職員に周知徹底により介護事故の再発防止を図ります。

そのための『3つの目標』と『3つの約束』

目標1　指針、マニュアルの整備

〈約束〉

① 指針、マニュアルを見直し、全スタッフに周知徹底を行います。
② 随時更新を行います。

③ 記録(事故報告書)の見直しを行い誰でも記録が出来るように行います。

目標2　事故分析、再発防止に努めます。ICTを活用したセンサー等の導入を検討します。

〈約束〉

① 事故報告を分析し、再発防止に努めます。
② 再発防止に役立つ、解りやすい動画等を利用し学習会を行います。
③ センサー等のデモ、導入に向けて取り組みます。

目標3　ヒヤリハットを分析し、事故防止に努めます。

〈約束〉

① KYトレーニングを実施し、事故防止に努めます。
② ヒヤリハットを分析し、事故防止に努めます。
③ 実際に現場をラウンドし、危険予知訓練を行います。

介護力向上委員会

2022スローガン

進め！おきなの杜！　見せよ！介護力！！

〈運営方針〉

今年から始まる、自立支援介護！介護職･機能訓練指導員･看護職･生活相談員･事務職員･･職種を問わず全員総力で取り組みましょう！
介護力向上委員会では、認知症に対する学びを深めて、改善可能な症状の改善に向けて取り組みます。
また、入浴を清潔保持･温熱療法･リラックス効果など、多角的にとらえて、目的に応じた適切な入浴方法について考え、学んでいきたいと思います。
前年度取り組みを行った『おきなの杜のおもてなし精神』については引き続き、おきなのPRIDE　5-15を浸透させ、業界トップレベルのおもてなしスタッフになれるように、それを誇りに思えるように取り組んでいきたいと考えます。

そのための『3つの目標』と『3つの約束』

目標1　認知症についての学習を深め、症状の改善を目指します

〈約束〉

① 認知症状のタイプについて学び、フィードバックします。
② 改善できる認知症について学び、取り組みを行います。
③ 取り組みの効果について評価を行います

目標2　心と体に心地よい入浴提供に取り組みます

〈約束〉

① 入浴に期待できる効果について学びます。
② エビデンスに基づいた入浴方法を実施します。
③ 取り組みの効果について評価を行います。

目標3　これからも　お･も･て･な･し

〈約束〉

① おきなPRIDE5-15を全スタッフに浸透させます。
② 定期的なチェックを行い、意識づけを行います。
③ おもてなし総選挙を継続して、素敵なスタッフの表彰を行います。

ノーリフティングケア委員会

2022スローガン

ノーリフティングケアと介護ロボットで先進的介護を目指します

〈運営方針〉

高齢者の増加に加え働き手となる生産年齢人口が減少し更なる介護人材不足が懸念されています。また社会福祉施設における労働災害は増加の一途で重要な解決課題です。ノーリフティングケアを身に付け作業環境などを見直すと共に、介護ロボットを活用し負担軽減を図ることが求められます。ノーリフティングケアに取り組んで5年目になります。昨年末にようやくスタンディングリフト(Hug)が導入されました。安全に使用できるよう練習し、効果やヒヤリハットなどを共有していきます。その他の介護ロボットについても導入目的を明確にし活用環境などに合わせた機器を選定していきます。
昨年度は技術チェックを実施し、個人差はありますが全体的な技術力の向上が確認できました。スタッフからも確認になった、自信がついたなど好評で今後も定期的に実施します。学習会への参加状況や技術チェック実施状況を随時共有しながらシフト調整し、全員参加を促していきます。今までの学習会では参加人数が多く反復練習する時間が確保できなかったため、令和4年度は参加人数を少数にし十分に反復練習することでより理解を深められるようにしたいと思います。また、スタッフへの腰痛体操やストレッチの指導なども行い、各自の腰痛予防に対する意識向上にもつなげていきたいと思います。

そのための『3つの目標』と『3つの約束』

目標1　腰痛発生状況を把握し、問題解決に取り組みます。

〈約束〉

① 半年に1回の腰痛アンケートを継続し問題点を分析します。
② 腰痛リスクとなる業務を抽出し、解決案を検討します。
③ 各自で実施できる腰痛体操やストレッチなどを指導します。

目標2　基本技術を身に付け、統一した安全な介護を提供します。

〈約束〉

① 定期的に全スタッフへの技術チェックを実施します。
② シートやボードの実技練習だけでなくポジショニング練習も行います。
③ 現場での個別指導を行います。

目標3　介護ロボットの使用、導入を進めていきます。

〈約束〉

① 介護ロボットの使い方を練習し安全に使用できるようにします。
② 介護ロボットによる効果やヒヤリハットなどを共有します。
③ 介護ロボットを検討しデモを行い導入に向けて準備して行きます。

安全衛生委員会

2022スローガン

セルフケア能力を高めて、心も身体も健やかに！

〈運営方針〉

2022年度は労働安全衛生法施行50年目となる節目の年であり、業務中の死亡災害は1972年施行後減少傾向にありますが、社会福祉施設においては、ケア中に腰痛の発生しやすい状況であったり、コロナ禍での精神的ストレスや交替勤務等により体調を崩しやすい業種である事から労働災害が全国的に増加傾向にあります。加えて、日本では少子高齢化が進み社会福祉施設のスタッフにおいて、一人ひとりが重要な役割を担っています。
また多様化したニーズに応えるため、各部署の全スタッフが住民様・利用者様にとって最善のサービスを提供しようと毎日試行錯誤を繰り返しています。その結果として日々業務で達成感や満足感を得られる反面、疲労感やストレスが蓄積されていることもまた事実です。
スタッフの心と身体の健康を推進し、職場環境における安全・保健・豊かさを守ることを目的として、毎日の生活に取り込める有益な情報や話題を提供したり、学習会を行うことによって、腰痛予防対策やメンタルヘルス対策等によるセルフケア能力の向上を図り健康対策を推進し、心も身体も健やかな職場環境の形成を目指します。また、新型コロナウイルス感染症について職場の安全衛生対策として、発熱等の風邪症状がみられるスタッフについては、休みやすい職場環境の整備に努めます。

そのための『3つの目標』と『3つの約束』

目標1　病気に負けない身体づくりをサポートします。

〈約束〉

① 健康診断を実施し、職員の健康状態を把握します。
② 健康診断の結果を参考に必要がある職員に適切なアドバイスを行います。
③ 健康に関連した情報収集を行い、それを基に学習会を行います。

目標2　腰痛予防対策に取り組みます。

〈約束〉

① 学習会を実施し、腰痛の原因を学びます。
② 腰痛健診の結果を確認し、必要に応じた改善策、アドバイスを進言します。
③ ノーリフティングケア委員会と協力して、体に負担をかけない介護技術を習得します。

目標3　安心・安全な職場環境づくりのための提案を行います。

〈約束〉

① 労働災害の事例学習会を開催し、安全衛生の周知・予防に努めます。
② ストレスチェックを実施し、ストレスへの気付きを促し原因の改善に努めます。
③ ハラスメントを学び、対処法やストレス解消法を提案し、良好な職場環境づくりに取り組みます。

行事・広報・もったいない環境整備委員会

2022スローガン

チャレンジ＆アップデート！　みんなで行事・広報・地域貢献のプロになる！

〈運営方針〉

コロナ禍の中、感染症対策の徹底や企画内容の工夫によって、館内での行事はいくつか行われています。しかし、定期的に実施していた外出イベントや、ご家族・地域の方々を招いた行事は控えざるを得ない状況が続いています。季節行事や外出（社会参加）は、脳の活性化や身体機能の向上につながり、これからの介護が目指す自立支援・重症化防止に役立ちます。また、長く面会が禁止され、寂しい思いをされている方に少しでも充実した生活を送っていただくという観点からも、行事は欠かせません。今年度も、諦めずに企画・実施したいと思います。
広報では、『介護業界のソーシャルメディア最前線を狙え！』をモットーに、頻度・鮮度の高い情報発信はもちろんのこと、戦略的・計画的な採用活動の展開に寄与できるよう、おきなの杜のブランディング戦略を意識したプロフェッショナルな情報発信を実行します。
もったいない・環境整備では、新たに持続可能な開発目標（SDGs）への取り組みをはじめます。『地域の健康と笑顔を守る』ことが持続可能な社会づくりに繋がると考え、だれ一人として取り残さない、安心して住み続けられる地域を築くことを目標に、高齢者介護施設としての強みを活かせる取り組みにアプローチします。そのために、SDGsにはどのような目標・取り組みがあり、どのような取り組み方があるのかを学び、実践に移していきたいと思います。

そのための『3つの目標』と『3つの約束』

目標1　安心・安全はもちろん、自立支援・重症化の防止に役立つ行事にチャレンジ！

〈約束〉

① 科学的介護推進の一助となるような行事を実践します。
② 「外出できない…」こんな時こそ、季節感を大事にした行事を推進します。
③ 感染症対策をはじめとした、安心・安全な行事の企画・実行を継続しておこないます。

目標2　全職員がプロリポーター！目指せ介護業界のソーシャルメディア最前線！

〈約束〉

① 採用活動、利用促進に「効く」広報活動を全職員で常に意識し、実践します
② プライドを持った広報戦略に、一丸となって取り組みます。
③ 全職員がプロのリポーター！スマホカメラの上手な使い方など、役立つ情報の提供を行います。

目標3　おきなのSDGs元年。強みを活かして、出来るコトから始めます！

〈約束〉

① SDGsとは？ を学ぶため、勉強会を実施します。
② 『住み続けられる街づくりを』私たちが地域に対して出来るコトを模索します。
③ 『すべての人に健康と福祉を』高齢者介護施設の強みを活かせる活動に力を入れ、地域に提供します。